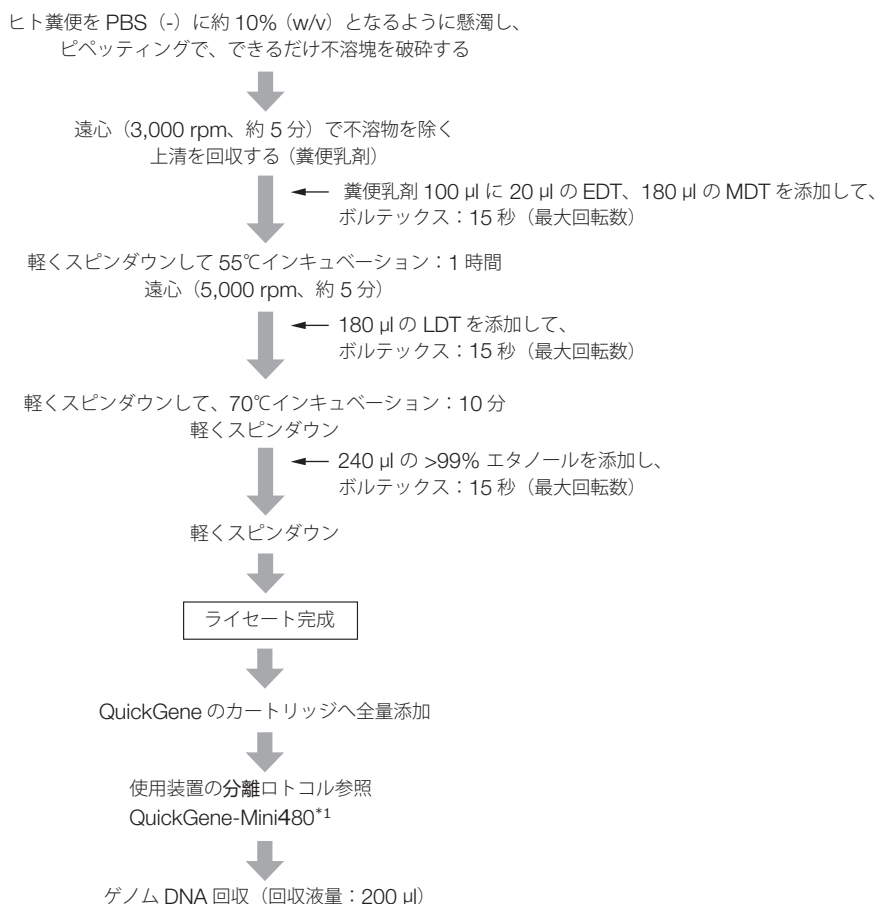


DF-14

ヒト糞便からのピロリ菌ゲノムDNA分離

プロトコル

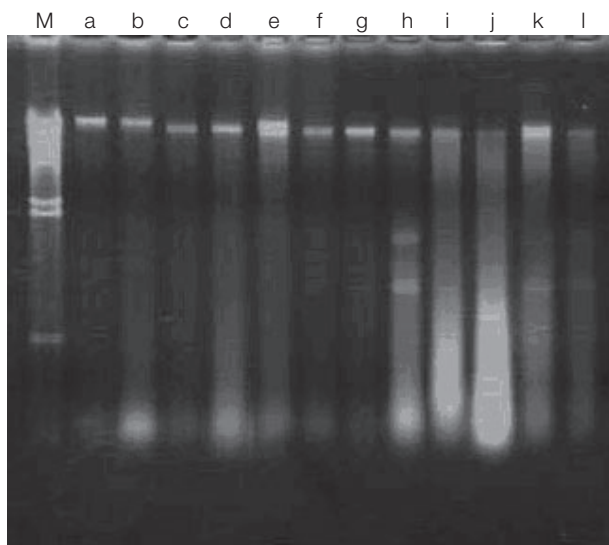


*1 本事例は旧機種で取得したデータ
も含まれます。
その他 QuickGene シリーズでもこ
のプロトコルをご参考頂けます。

結果

電気泳動図

ヒト糞便由来 DNA のアガロース電気泳動図 (1.5% アガロースゲル)



M : marker (λ -Hind III)
a, g : No.1 (糞便、ピロリ陽性)
b, h : No.2 (糞便、ピロリ陽性)
c, i : No.3 (糞便、ピロリ陽性)
d, j : No.4 (糞便、ピロリ陽性)
e, k : No.5 (糞便、ピロリ陰性)
f, l : No.6 (糞便、ピロリ陰性)

a - f : QuickGene
g - l : A社

ゲノム DNA の収量

	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6
QuickGene	0.48	1.92	0.40	1.48	3.28	1.32
A社 スピニング法	2.48	0.76	1.36	4.8	5.68	0.48

QuickGene システムの方が収量の低い検体が認められたが、アガロース電気泳動像から、A社キットで精製した標品の方で、分解によると思われる低分子量の物質が多く認められた。紫外線吸収による算出では、低分子量の物質を含めた値となっており、収量が高く出ていることが考えられた。以上の結果から、QuickGene システムの方が、分解の少ないゲノム DNA が効率良く精製されていると考えられる。

タンパク質の混入：A260/280

	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6
QuickGene	1.73	2.10	1.74	1.90	2.03	1.96
A社 スピニング法	1.83	1.76	1.72	1.70	1.65	1.73

カオトロピック塩の混入：A260/230

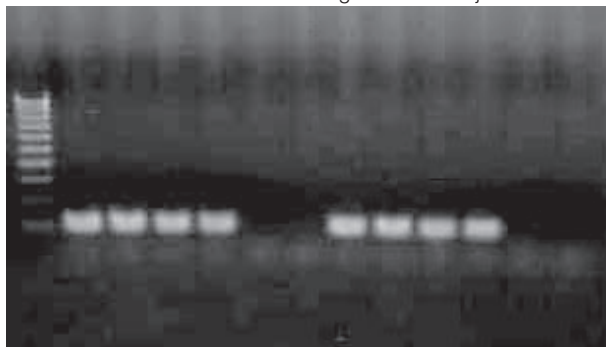
データなし

その他

• PCR

ピロリ菌 16S rRNA をコードするゲノム DNA の nested PCR による検出

M a b c d e f g h i j k l



M : マーカー (100 bp ladder)

a, g : No.1 (糞便、ピロリ陽性)

b, h : No.2 (糞便、ピロリ陽性)

c, i : No.3 (糞便、ピロリ陽性)

d, j : No.4 (糞便、ピロリ陽性)

e, k : No.5 (糞便、ピロリ陰性)

f, l : No.6 (糞便、ピロリ陰性)

a - f : QuickGene

g - l : A社

ヒト糞便から QuickGene で調製した DNA を用いて nested PCR にて、テストメイトラピッドピロリ抗原キットで陽性と判定された患者の糞便からピロリ菌の DNA を検出することができた。

共通プロトコルサンプル

データなし